

北海道統括支店 道央地域より新年のご挨拶

明けましておめでとう御座います。

旧年中は、弊社取扱い製商品につきまして格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、国内各地で天災が多発し、農工業の全てに多大な影響を及ぼす年となりました。

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震では、関東から東北地区の太平洋岸に津波による被害が集中し、その被害は過去に類を見ないので、多くの人命を奪い農業を含めた生産基盤の多くが破壊され、再生産へは多くの時間と多大な費用が必要となります。

当社も、東北地区で関係する2工場が被災し、短期間ですが苦小牧飼料工場での製造支援を行いました。今後も災害に対する準備を心掛け取組みを進めたいと考えます。

昨年の配合飼料価格は、一昨年の秋以降に値上がり基調に転じた輸入穀物市況が、昨年も世界的な需要の増加や投機等の影響から、1月以降も上昇基調が続き6月10日には「とうもろこし」で7.99ドル/ブッシュェルの史上最高値を更新し、配合価格も3期連続(23.1-3月、4-6月、7-9月)で値上げが行われました。

しかし、9月以降は欧州の金融・財政問題から投機資金が流出し、加えて米国で「とうもろこし」の旧穀在庫が確認された事で大幅に下落し、10-12月期の配合飼料価格は値下げとなりました。

今年も、長引く欧州の金融・財政問題、世界的な異常気象による農作物生産への影響等で、「とうもろこし」や「大豆」については、今後も市場動向に対して注視が必要です。

一方、昨年の道内気候は春先の低温と長雨の影響から、全体的に農作物の作付けが遅延し、地域間で格差が生じる年となりました。

7月以降は、天候の好転により牧草類の生育が回復し、収穫作業も順調に進んだ事から、良質な繊維源が確保出来たものと推察します。

しかし、「飼料用とうもろこし」では全道的に台風の影響から、倒伏や病気が発生し地域間で大きな差がでる結果となりました。

道央地域では、上川北部地区や渡島・檜山地区で、収穫時期の長雨で適期収穫が叶わず、サイレージの品質劣化が危惧され、給与する牛や経営への影響を懸念されます。

4年目を迎えた簡易更新機による自給飼料増産と品質向上への取組みは、各拠点(道央、八雲、旭川、豊富)で活用頂いた皆様から好評を頂き、今年も継続した取組みとして拡大し進める所存です。

今年も、経済の長期低迷から酪農や畜産生産物の消費回復は厳しいものと推測しますが、道内農業生産物の安全や安心という価値を認識し、消費拡大への継続的取組が大切と考えております。

道央地域の各各拠点(道央、八雲、旭川、豊富)では、所員一同酪農畜産経営の安定化に寄与すべく、生産現場での自給飼料増産と品質改善に向け、取組みを継続して参りますので、何なりとご相談頂ければ幸いです。

北海道統括支店(道央地域担当)

副統括支店長 篠原 忠利